

福岡市公報 第7113号（別冊）

令和6年度 上半期

業務状況の説明

（公営企業会計）

地方自治法第233条第6項の規定により本市モーターボート競走事業の令和5年度決算の要領を、福岡市モーターボート競走事業の設置等に関する条例第8条第4項の規定により、同事業の令和6年度上半期(令和6年4月1日から令和6年9月30日まで)における業務状況を、次のように公表する。

令和7年1月16日

福岡市長 高 島 宗 一 郎

福岡市モーターボート競走事業の令和5年度決算の要領及び
令和6年度上半期の業務状況
(第17回公表)
目 次

	ページ
1 令和5年度決算の要領	1
(1) 決算の概要	1
(2) 業務量	2
(3) 損益計算書	2
(4) 貸借対照表	2
2 業務状況(令和6年4月1日から令和6年9月30日まで)	3
(1) 概況	3
(2) 事業報告書	3
(3) 損益計算書	4
(4) 貸借対照表	4
(5) 企業債及び一時借入金の現在高	4

1 令和5年度決算の要領

(1) 決算の概要

本市のモーターボート競走事業は、昭和28年9月26日の初開催以来、これまでに約2,986億円(令和5年度末)を一般会計へ繰り出し、教育、子ども、社会福祉などの本市施策への貴重な財源となり、市民生活の質の向上に大きな役割を果たしてきました。

令和5年度の売上につきましては、705億6,875万円で、前年度と比べ、58億1,162万円、9.0パーセントの増となっております。

経営状況は、総収益747億1,003万円に対し、総費用697億2,292万円となり、差引49億8,711万円の純利益が生まれました。

この結果、令和4年度からの繰越利益剰余金に当年度純利益を合わせた、162億8,651万円のうち、40億円を一般会計への繰出金として利益処分し、残りの122億8,651万円は未処分利益剰余金となっております。

今後とも売上の向上を目指すとともに、なお一層の経営の効率化と健全化に努め、一般会計への繰出金を通じて、本市まちづくりへ貢献するという使命を果たしてまいります。

(2) 業務量

区 分	単位	令和5年度	令和4年度	差引増減
開 催 日 数	日	168	168	-
勝舟投票券売上高	千円	70,568,750	64,757,128	5,811,622
1日平均売上高	千円	420,052	385,459	34,593
開催事務受託売上金額	千円	5,527,839	6,011,387	△ 483,548
場間場外発売事務受託売上金額	千円	14,448,165	13,900,813	547,352

(3) 損益計算書 (令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

(単位：千円)

区 分	金 額
総 収 益 (A)	74,710,026
営 業 収 益	74,669,133
営 業 外 収 益	40,893
総 費 用 (B)	69,722,917
営 業 費 用	68,858,025
営 業 外 費 用	864,892
特 別 損 失	0
差引損益(A) - (B)	4,987,109

(4) 貸借対照表 (令和6年3月31日現在)

(単位：千円)

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	23,018,283	固定負債	348,890
流動資産	22,999,702	流動負債	1,795,803
		繰延収益	338,997
		資 本 金	27,247,785
		剰 余 金	16,286,510
計	46,017,985	計	46,017,985

2 業務状況（令和6年4月1日から令和6年9月30日まで）

(1) 概況

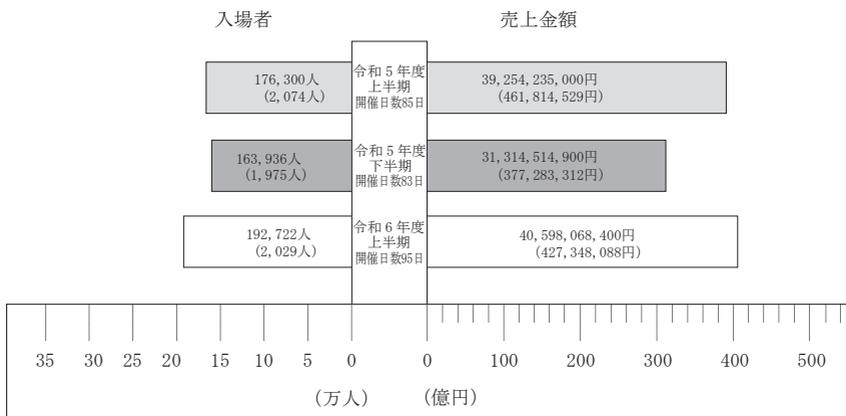
令和6年度上半期の開催日数は95日（前年度同期比10日増）、入場者数は192,722人（1日平均 2,029人）で、前年度同期と比べ9.3パーセントの増（1日平均 2.2パーセントの減）となっております。これは、開催日数が前年同期より増加したことによるものです。

売上金額は、40,598,068,400円（1日平均 427,348,088円）で、前年度同期と比べ、3.4パーセントの増（1日平均 7.5パーセントの減）となっております。

また、場間場外発売については、場内売上が1,420,323,400円、外向発売所（ペラボート福岡）売上が5,766,959,900円、合計 7,187,283,300円で、前年度同期と比べ6.9パーセントの増となっております。

(2) 事業報告書

入場者及び売上金額（ ）は1日平均



(3) 損益計算書（令和6年4月1日から令和6年9月30日まで）

（単位：千円）

区 分	金 額
総 収 益（A）	41,714,356
営 業 収 益	41,696,683
営 業 外 収 益	17,673
総 費 用（B）	36,517,075
営 業 費 用	36,517,075
営 業 外 費 用	-
差引損益(A)－(B)	5,197,281

(4) 貸借対照表（令和6年9月30日現在）

（単位：千円）

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	22,759,851	固定負債	348,890
流動資産	27,300,998	流動負債	641,386
		繰延収益	338,997
		資本金	27,247,785
		剰余金	21,483,791
計	50,060,849	計	50,060,849

(5) 企業債及び一時借入金の現在高（令和6年9月30日現在）

ア 企業債の現在高

なし

イ 一時借入金の現在高

なし

福岡市集落排水事業の設置等に関する条例第8条第4項の規定により同事業の令和6年度上半期（令和6年4月1日から令和6年9月30日まで）における業務状況を、次のように公表する。

令和7年1月16日

福岡市長 高 島 宗 一 郎

福岡市集落排水事業の令和6年度上半期の業務状況

（第1回公表）

目 次

	ページ
1 業務状況（令和6年4月1日から令和6年9月30日まで）	5
(1) 概 況	5
(2) 事業報告書	5
(3) 損益計算書	6
(4) 貸借対照表	6
(5) 企業債及び一時借入金の現在高	6

1 業務状況（令和6年4月1日から令和6年9月30日まで）

(1) 概況

集落排水事業は、農業集落や漁業集落において、生活環境の改善や公共用水域の水質保全のため、公共下水道と同様にし尿や生活雑排水等の汚水処理を行う事業です。

本市の集落排水事業は昭和60年度に最初の集落排水処理施設の供用を開始して以降、現在、市内8カ所において集落排水処理施設を供用し汚水処理を行っています。

令和6年度上半期におきましても、適切な運転管理の他、各施設が十分に機能するよう老朽化の進んだ機器を更新する等の管理・運営を行いました。

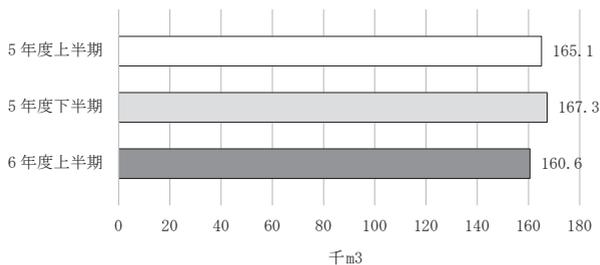
また、令和6年度からは、より財務状況を的確に把握し効率的に運営を行うべく地方公営企業法の財務規定を適用し、企業会計制度を導入したところです。

今後も、利用される方の生活環境や公共用水域の水質保全に寄与するべく、適切に事業運営を行ってまいります。

(2) 事業報告書

処理水量について

今年度上半期の処理水量は約160,600㎥であり、前期（令和5年度下半期）と比較して約6,700㎥減少、前年同期（令和5年度上半期）と比較して約4,500㎥減少しました。



(3) 損益計算書（令和6年4月1日から令和6年9月30日まで）

(単位：千円)

区 分	金 額
総 収 益 (A)	281,581
営 業 収 益	165,892
営 業 外 収 益	115,689
特 別 利 益	0
総 費 用 (B)	138,034
営 業 費 用	60,494
営 業 外 費 用	5,512
特 別 損 失	72,028
差引損益(A)－(B)	143,547

(4) 貸借対照表（令和6年9月30日現在）

(単位：千円)

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	3,862,450	固定負債	620,280
流動資産	202,541	流動負債	97,395
		繰延収益	1,803,429
		資本金	1,400,340
		剰余金	143,547
計	4,064,991	計	4,064,991

(5) 企業債及び一時借入金の現在高（令和6年9月30日現在）

ア 企業債の現在高

(単位：百万円)

令和5年度末 現 在 高	令和6年度上半期		令和6年度 上半期末現在高
	発行額	償還額	
744	-	95	649

イ 一時借入金の現在高

なし

地方自治法第233条第6項の規定により本市下水道事業の令和5年度決算の要領を、福岡市下水道事業の設置等に関する条例第8条第4項の規定により同事業の令和6年度上半期（令和6年4月1日から令和6年9月30日まで）における業務状況を、次のように公表する。

令和7年1月16日

福岡市長 高 島 宗 一 郎

福岡市下水道事業の令和5年度決算の要領及び
令和6年度上半期の業務状況
(第77回公表)
目 次

	ページ
1 令和5年度決算の要領	7
(1) 決算の概要	7
(2) 業務量	8
(3) 損益計算書	8
(4) 貸借対照表	8
2 業務状況（令和6年4月1日から令和6年9月30日まで）	9
(1) 概況	9
(2) 事業報告書	9
(3) 損益計算書	10
(4) 貸借対照表	10
(5) 企業債及び一時借入金の現在高	10

1 令和5年度決算の要領

(1) 決算の概要

下水道は、生活環境改善及び浸水の防除のための基幹施設であるとともに、海・河川等の公共用水域の水質保全のための重要な施設です。

本市は、下水道の緊急かつ計画的な整備を推進するため、第1次下水道整備五箇年計画を策定した昭和38年に、本格的に事業着手して以来、積極的に整備を進めてきた結果、令和5年度末の人口普及率は99.7パーセントとなっています。

令和5年度におきましては、増大する老朽化施設の改築需要に対応するため、管渠・ポンプ場・水処理センターの改築更新を最重点で取り組みました。

また、重点的に雨水対策を行う「雨水整備Dプラン2026」や天神周辺地区の雨水対策を強化した「雨水整備レインボープラン天神」第2期事業等の浸水対策を推進するとともに、下水道施設の耐震化に取り組みました。

このほか、未整備区域の解消や合流式下水道の改善、再生水利用下水道事業を推進するとともに、下水道資源の有効利用や再生可能エネルギーの導入、DXの取組み等を推進しました。

施設の維持管理面では、処理施設・ポンプ施設の適切な運転管理と、管渠等の計画

的な調査及びそれに基づく清掃・補修を実施し、維持管理業務の効率化とその充実を図りました。

(2) 業務量

※年間処理水量は、本市単独の処理場に係る分で、流域関連公共下水道分を除く。

区 分	単位	令和5年度	令和4年度	差引増減
処 理 区 域 内 人 口	千人	1,641	1,629	12
人 口 普 及 率	%	99.7	99.7	0.0
年 間 処 理 水 量	千m ³	187,505	172,201	15,304
処 理 区 域 面 積	ha	17,200	17,199	1

(3) 損益計算書（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）

（単位：千円）

区 分	金 額	備 考
総 収 益	54,832,986	
営 業 収 益	44,517,401	
営 業 外 収 益	10,271,018	他会計負担金 130,777
特 別 利 益	44,567	
総 費 用	48,182,821	
営 業 費 用	44,170,224	
営 業 外 費 用	3,980,327	
特 別 損 失	32,270	
差 引 純 利 益	6,650,165	

(4) 貸借対照表（令和6年3月31日現在）

（単位：千円）

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	758,237,867	固定負債	290,268,357
流動資産	31,359,112	流動負債	40,645,667
		繰延収益	212,286,604
		資本金	170,557,805
		剰余金	75,838,546
計	789,596,979	計	789,596,979

2 業務状況（令和6年4月1日から令和6年9月30日まで）

(1) 概況

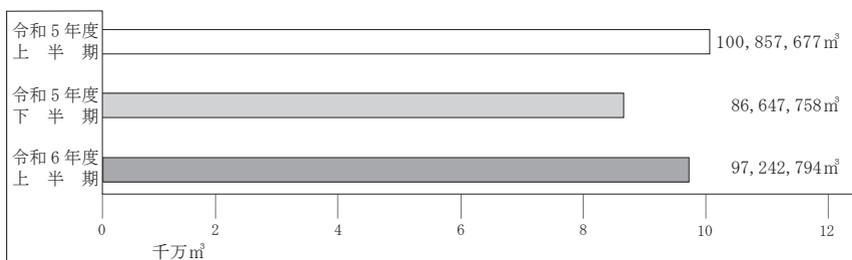
老朽化した施設の改築更新を最重点として事業を実施し、また、重点地区を定め雨水対策を行う「雨水整備Dプラン2026」及び雨水対策を強化した「雨水整備レインプラン天神」に基づく施設整備や、下水道施設の耐震化を進めてまいりました。

また、公共用水域の水質保全のため、合流式下水道の改善などを進めるとともに、下水道資源の有効利用等を推進してまいりました。

今後とも、市民の皆様が下水道サービスを安定的・継続的に利用でき、快適で安心して暮らせますよう、適正かつ効率的な事業運営に取り組んでまいります。

(2) 事業報告書

処理水量



※場内循環水を含む。

(3) 損益計算書（令和6年4月1日から令和6年9月30日まで）

(単位：千円)

区 分	金 額
総 収 益 (A)	26,246,589
営 業 収 益	21,320,236
営 業 外 収 益	4,913,881
特 別 利 益	12,472
総 費 用 (B)	21,803,461
営 業 費 用	20,067,788
営 業 外 費 用	1,709,627
特 別 損 失	26,046
差引損益(A)－(B)	4,443,128

(4) 貸借対照表（令和6年9月30日現在）

(単位：千円)

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	753,224,843	固定負債	290,268,357
流動資産	15,267,886	流動負債	17,696,532
		繰延収益	209,682,660
		資本金	170,557,805
		剰余金	80,287,375
計	768,492,729	計	768,492,729

(5) 企業債及び一時借入金の現在高（令和6年9月30日現在）

ア 企業債の現在高

(単位：百万円)

令和5年度末 現 在 高	令和6年度上半期		令和6年度 上半期末現在高
	発行額	償還額	
312,664	－	8,298	304,366

イ 一時借入金の現在高

なし

地方自治法第233条第6項の規定により、本市水道事業の令和5年度決算の要領を、福岡市水道事業の設置等に関する条例第8条第4項の規定により同事業の令和6年度上半期（令和6年4月1日から令和6年9月30日まで）における業務状況を、次のように公表する。

令和7年1月16日

福岡市長 高 島 宗 一 郎

福岡市水道事業の令和5年度決算の要領及び
令和6年度上半期の業務状況
(第144回公表)
目 次

	ページ
1 令和5年度決算の要領	11
(1) 決算の概要	11
(2) 業務量	12
(3) 損益計算書	12
(4) 貸借対照表	12
2 業務状況（令和6年4月1日から令和6年9月30日まで）	13
(1) 概況	13
(2) 事業報告書	13
(3) 損益計算書	14
(4) 貸借対照表	14
(5) 企業債及び一時借入金の現在高	14

1 令和5年度決算の要領

(1) 決算の概要

令和5年度は、水道事業の基本計画として策定した「福岡市水道長期ビジョン2028」及びその第2次実施計画として策定した「第2次福岡市水道中期経営計画」の3年目として、これらの計画に基づく各施策を着実に推進してまいりました。

財政状況は、総収益368億4,789万円に対し、総費用は311億714万円で、差引57億4,075万円の純利益が生じました。

この結果、当年度の未処分利益剰余金は、減債積立金の取崩しに伴い発生する、その他未処分利益剰余金変動額33億2,408万円を含め、90億6,483万円となっております。

また、令和5年度末の企業債残高は1,046億1,693万円で、前年度末から2億1,929万円減少しており、着実に減少してはおりますが、将来にわたり安定経営を持続していくため、更なる経営の効率化を行い、利益を確保することで新たな企業債の借入を抑制するよう努めてまいります。

今後とも、長期ビジョンの基本理念である「みなさまから信頼される水道」の実現に向け、各施策を着実に実施してまいります。

(2) 業務量

区 分	単位	令和5年度	令和4年度	差引増減
給 水 戸 数	戸	958,017	945,210	12,807
年 間 総 給 水 量	m ³	154,460,569	152,650,614	1,809,955
1 日 最 大 給 水 量	m ³	458,533	459,633	△ 1,100
1 日 平 均 給 水 量	m ³	422,023	418,221	3,802
年 間 有 収 水 量	m ³	148,236,439	147,222,835	1,013,604
有 収 率	%	96.0	96.4	△ 0.4

(3) 損益計算書（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）

(単位：千円)

区 分	金 額
総 収 益 (A)	36,847,892
営 業 収 益	32,328,819
営 業 外 収 益	4,505,538
特 別 利 益	13,535
総 費 用 (B)	31,107,143
営 業 費 用	29,675,392
営 業 外 費 用	1,404,704
特 別 損 失	27,047
差引損益(A)－(B)	5,740,749

(4) 貸借対照表（令和6年3月31日現在）

(単位：千円)

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	379,419,466	固定負債	101,941,513
流動資産	25,695,483	流動負債	17,985,194
		繰延収益	61,285,365
		資本金	212,215,820
		剰余金	11,687,057
計	405,114,949	計	405,114,949

2 業務状況（令和6年4月1日から令和6年9月30日まで）

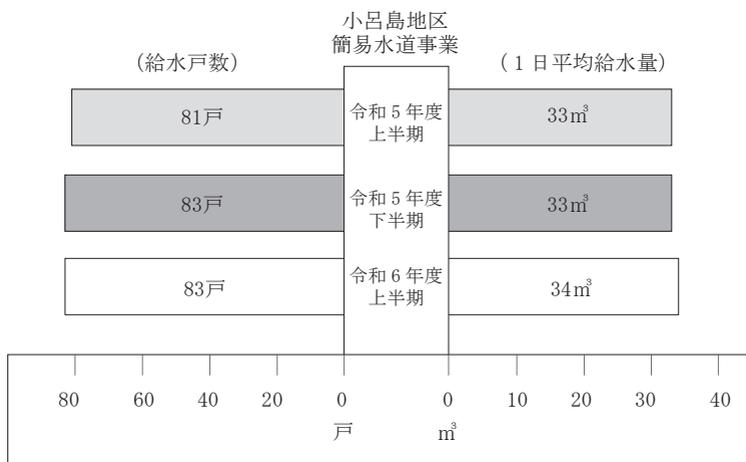
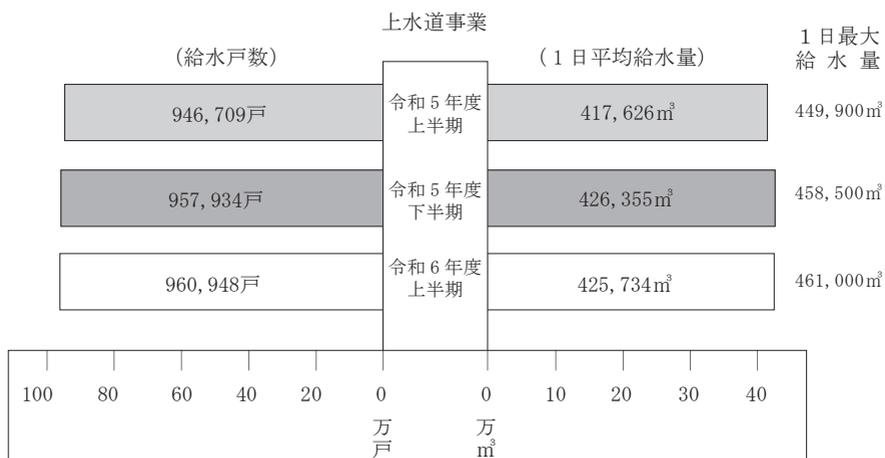
(1) 概況

令和6年度上半期においては、「福岡市水道長期ビジョン2028」に基づく水の安定供給に向けた計画的な施設整備等の各施策を着実に推進してまいりました。

今後も、長期ビジョンの基本理念である「みなさまから信頼される水道」の実現に向け、各施策を実施していくとともに、事業の運営についても効率的な執行を図り、財政の健全化に努めてまいります。

(2) 事業報告書

給水状況



(3) 損益計算書 (令和6年4月1日から令和6年9月30日まで)

(単位:千円)

区 分	金 額
総 収 益 (A)	18,593,113
営 業 収 益	16,425,406
営 業 外 収 益	2,158,632
特 別 利 益	9,075
総 費 用 (B)	13,889,800
営 業 費 用	13,198,859
営 業 外 費 用	668,654
特 別 損 失	22,287
差引損益(A)-(B)	4,703,313

(4) 貸借対照表 (令和6年9月30日現在)

(単位:千円)

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	378,316,617	固定負債	102,017,007
流動資産	21,606,920	流動負債	8,475,344
		繰延収益	60,636,984
		資本金	212,403,832
		剰余金	16,390,370
計	399,923,537	計	399,923,537

(5) 企業債及び一時借入金の現在高 (令和6年9月30日現在)

ア 企業債の現在高

(単位:百万円)

令和5年度末 現 在 高	令和5年度上半期		令和6年度 上半期末現在高
	発行額	償還額	
104,617	—	3,699	100,918

イ 一時借入金の現在高

なし

地方自治法第233条第6項の規定により、本市工業用水道事業の令和5年度決算の要領を、福岡市水道事業の設置等に関する条例第8条第4項の規定により同事業の令和6年度上半期（令和6年4月1日から令和6年9月30日まで）における業務状況を、次のように公表する。

令和7年1月16日

福岡市長 高 島 宗 一 郎

福岡市工業用水道事業の令和5年度決算の要領及び
令和6年度上半期の業務状況
(第119回公表)
目 次

	ページ
1 令和5年度決算の要領	15
(1) 決算の概要	15
(2) 業務量	16
(3) 損益計算書	16
(4) 貸借対照表	16
2 業務状況（令和6年4月1日から令和6年9月30日まで）	17
(1) 概況	17
(2) 事業報告書	17
(3) 損益計算書	17
(4) 貸借対照表	18
(5) 企業債及び一時借入金の現在高	18

1 令和5年度決算の要領

(1) 決算の概要

令和5年度は、工業用水道事業の基本計画として策定した「福岡市工業用水道長期ビジョン2028」及びその第2次実施計画として策定した「第2次福岡市工業用水道中期経営計画」の3年目として、これらの計画に基づく各施策を着実に実施してまいりました。

財政状況は、総収益2億1,241万円に対し、総費用は3億18万円となり、差引8,777万円の純損失を生じました。

この結果、当年度の未処分利益剰余金は、4億7,409万円となっております。

また、令和5年度末の企業債残高は25億9,960万円で、前年度末から1,912万円増加しております。

今後も長期ビジョンの基本理念である「産業と暮らしを支える工業用水道を次世代へ」健全な形で確実に引き継いでいけるよう、各施策を着実に実施してまいります。

(2) 業務量

区 分	単位	令和5年度	令和4年度	差引増減
給水事業所数	事業所	30	31	△ 1
平均契約水量	m ³ /日	7,876	8,224	△ 348
年間料金水量	m ³	2,937,604	3,050,651	△ 113,047

(3) 損益計算書（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）

(単位：千円)

区 分	金 額
総 収 益 (A)	212,412
営 業 収 益	200,107
営 業 外 収 益	12,305
総 費 用 (B)	300,184
営 業 費 用	287,246
営 業 外 費 用	12,938
差引損益(A)－(B)	△ 87,772

(4) 貸借対照表（令和6年3月31日現在）

(単位：千円)

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	3,438,643	固定負債	2,562,837
流動資産	637,650	流動負債	109,084
		繰延収益	352,119
		資本金	578,167
		剰余金	474,086
計	4,076,293	計	4,076,293

2 業務状況（令和6年4月1日から令和6年9月30日まで）

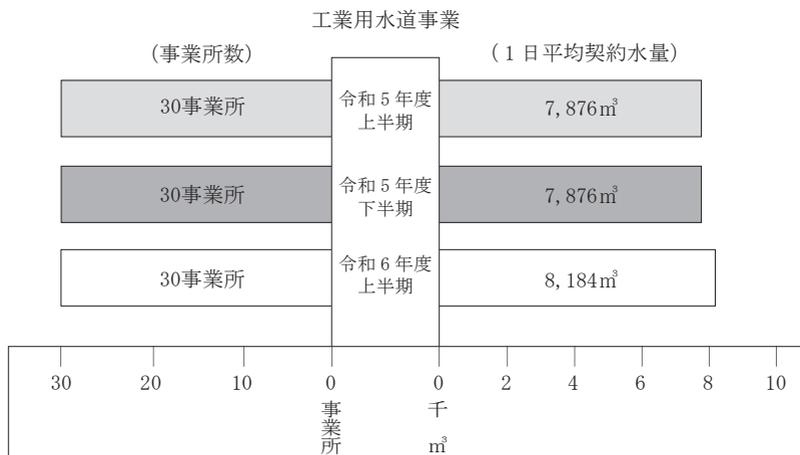
(1) 概況

令和6年度上半期の給水事業所数は30事業所（9月30日現在）で、1日平均契約水量は8,184立方メートルとなっております。

今後とも、事業の効率的な運営に努めてまいります。

(2) 事業報告書

給水状況



(3) 損益計算書（令和6年4月1日から令和6年9月30日まで）

（単位：千円）

区 分	金 額
総 収 益 (A)	110,822
営 業 収 益	104,554
営 業 外 収 益	6,268
総 費 用 (B)	111,246
営 業 費 用	104,759
営 業 外 費 用	6,487
差引損益(A)－(B)	△ 424

(4) 貸借対照表 (令和6年9月30日現在)

(単位: 千円)

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	3,436,439	固定負債	2,562,837
流動資産	567,884	流動負債	43,655
		繰延収益	346,002
		資本金	578,167
		剰余金	473,662
計	4,004,323	計	4,004,323

(5) 企業債及び一時借入金の現在高 (令和6年9月30日現在)

ア 企業債の現在高

(単位: 百万円)

令和5年度末 現 在 高	令和6年度上半期		令和6年度 上半期末現在高
	発行額	償還額	
2,600	—	18	2,582

イ 一時借入金の現在高

なし

地方自治法第233条第6項の規定により本市高速鉄道事業の令和5年度決算の要領を、福岡市交通事業の設置等に関する条例第8条第4項の規定により同事業の令和6年度上半期(令和6年4月1日から令和6年9月30日まで)における業務状況を、次のように公表する。

令和7年1月16日

福岡市長 高 島 宗 一 郎

福岡市高速鉄道事業の令和5年度決算の要領及び
令和6年度上半期の業務状況
(第101回公表)
目 次

	ページ
1 令和5年度決算の要領	19
(1) 決算の概要	19
(2) 業務量	20
(3) 損益計算書	20
(4) 貸借対照表	20
2 業務状況(令和6年4月1日から令和6年9月30日まで)	21
(1) 概況	21
(2) 事業報告書	21
(3) 損益計算書	22
(4) 貸借対照表	22
(5) 企業債及び一時借入金の現在高	22

1 令和5年度決算の要領

(1) 決算の概要

本市の高速鉄道事業は、昭和56年7月26日に空港線(1号線)室見～天神間で営業を開始して以来、順次部分開業を続け、平成5年3月3日の空港線博多～福岡空港間の開業により、空港線と箱崎線(2号線)の全区間が開業しました。また、西南部地域における基幹交通機関として七隈線(3号線)橋本～天神南間が平成17年2月3日に開業、令和5年3月27日には天神南～博多間が開業し、空港線、箱崎線と七隈線を合わせて31.4キロメートルでの営業となりました。

令和5年度の輸送人員及び乗車料収入につきましては、年間輸送人員176,425,682人(1日平均482,037人)、乗車料収入(消費税及び地方消費税を除く。)312億9,605万円で、前年度に比べて、それぞれ30,733,429人(21.1パーセント)、58億179万円(22.8パーセント)の増となっております。

経営状況につきましては、総収益389億7,453万円に対し、総費用は304億4,113万円で、差引85億3,340万円の純利益が生じております。

本年度末における累積欠損金につきましては、1,003億5,758万円となっております。

今後とも経営戦略に定めた経営理念の下、安全・安心を最優先に、計画的かつ効率的な投資や増収対策に取り組んでまいります。

(2) 業務量

区 分		単位	令和5年度	令和4年度	差引増減	
営業キロ		km	31.4	31.4	0	
在籍車両数		両	228	228	0	
輸 送 人 員	年 間	定 期	人	82,336,320	73,653,420	8,682,900
		定期外	人	94,089,362	72,038,833	22,050,529
		計	人	176,425,682	145,692,253	30,733,429
	1日平均	定 期	人	224,962	201,790	23,172
		定期外	人	257,075	197,367	59,708
		計	人	482,037	399,157	82,880
乗 車 料 収 入	年 間	定 期	円	10,716,379,241	9,600,964,787	1,115,414,454
		定期外	円	20,579,670,750	15,893,292,700	4,686,378,050
		計	円	31,296,049,991	25,494,257,487	5,801,792,504
	1日平均	定 期	円	29,279,725	26,304,013	2,975,712
		定期外	円	56,228,608	43,543,268	12,685,340
		計	円	85,508,333	69,847,281	15,661,052

(注) 乗車料収入は、消費税及び地方消費税を除く。

(3) 損益計算書 (令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

(単位：千円)

区 分	金 額
総 収 益 (A)	38,974,531
営 業 収 益	33,730,262
営 業 外 収 益	4,961,026
特 別 利 益	283,243
総 費 用 (B)	30,441,132
営 業 費 用	28,384,621
営 業 外 費 用	2,050,231
特 別 損 失	6,280
差引損益(A)－(B)	8,533,399

(4) 貸借対照表 (令和6年3月31日現在)

(単位：千円)

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	353,626,927	固定負債	183,865,067
流動資産	18,645,359	流動負債	42,313,482
		繰延収益	95,848,756
		資 本 金	139,800,647
		剰 余 金	△ 89,555,666
計	372,272,286	計	372,272,286

2 業務状況（令和6年4月1日から令和6年9月30日まで）

(1) 概況

令和6年度上半期における輸送人員及び乗車料収入につきましては、輸送人員94,672,653人（1日平均517,337人）、乗車料収入（消費税及び地方消費税除く。）166億912万円で、前年度同期に比べて、それぞれ7,382,100人（8.5パーセント）、12億5,168万円（8.2パーセント）の増となっております。

この結果、上半期の経営状況は、当期純損益が約41億円の黒字となっておりますが、引き続き計画的かつ効率的な投資や増収対策に取り組んでまいります。

(2) 事業報告書

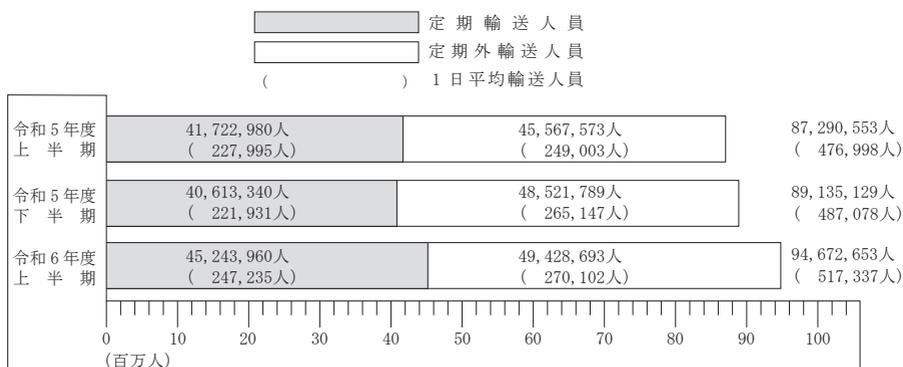
ア 営業区間及び営業キロ

空港線（1号線）	姪浜	～	福岡空港	13.1キロメートル
箱崎線（2号線）	中洲川端	～	貝塚	4.7キロメートル
七隈線（3号線）	橋本	～	博多	13.6キロメートル
	合計			31.4キロメートル

イ 在籍車両数

228両

ウ 輸送人員



(3) 損益計算書 (令和6年4月1日から令和6年9月30日まで)

(単位:千円)

区 分	金 額
総 収 益 (A)	19,946,929
営 業 収 益	17,846,251
営 業 外 収 益	1,822,914
特 別 利 益	277,764
総 費 用 (B)	15,852,686
営 業 費 用	14,910,575
営 業 外 費 用	942,111
特 別 損 失	0
差引損益(A)-(B)	4,094,243

(4) 貸借対照表 (令和6年9月30日現在)

(単位:千円)

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	347,586,383	固定負債	167,341,369
流動資産	19,238,087	流動負債	51,117,136
		繰延収益	94,026,741
		資本金	139,800,647
		剰余金	△ 85,461,423
計	366,824,470	計	366,824,470

(5) 企業債及び一時借入金の現在高 (令和6年9月30日現在)

ア 企業債の現在高

(単位:百万円)

令和5年度末 現 在 高	令和6年度上半期		令和6年度 上半期末現在高
	発行額	償還額	
207,746	—	6,819	200,927

イ 一時借入金の現在高

なし